

海事協會所屬の検査員は逓信大臣の認可を受け其執行せる材料試験證明は造船規程に要する材料に對し有効と認められ居れるを以て各造船所又は鐵材商にして同協會に材料證明を申込むもの多く現に浦賀船渠會社、神戸川崎造船所、大阪小野鐵工造船所の如きは在庫品又は市場買入品に對し證明を受けたるもの多額に達せりと云ふ。

尙同協會の材料證明は使用船舶の何れを限定せず單に造船材料としての證明を與ふる故材料使用者に於ては合格材料中より撰擇して新造船に要する材料を定め得べきを以て非常なる便利を得つゝありと云ふ、又同協會の材料試験は造船材料に限らず建築其他一般材料にても其試験證明に應ずるを以て各鐵材商に於ても之を利用する時は便益尠なからざるへしと思料せらるる同協會の材料検査規則左の如し。

#### 帝國海事協會材料試験及検査規則

第一條 造船材料ハ造船規程及船舶検査規程ニヨリ試験及検査ヲ行フ

第二條 前條ノ試験及検査ニ合格セル材料ニハ本會所定ノ記章及番號ヲ刻印シ別紙甲號書式ノ證明書及成績書ヲ發行ス

第三條 一般ノ材料ハ検査依頼者ヨリ特別ノ指定アル場合ノ外本會検査員ノ適當ト認ムル検査ヲ行ヒ要求ニ應ジ本會所定ノ番號ヲ刻印シ別紙乙號書式ノ證明書及成績書ヲ發行ス

第四條 材料検査ノ依頼者ハ申込書ニ材料目錄ヲ添へ本

會事務所若クハ出張所ニ申込マルヘシ

第五條 材料検査及證明手数料ハ左ノ通り申受ク

抗張試験 試験片一個ニ付 金 貳 圓

屈曲試験 同 金 壹 圓

墜落及槌打試験試験材一個ニ付 金壹圓以上拾圓以下

鉸釘屈曲試験 同 金 壹 圓

鉸釘鍛鍊試験 同 金 壹 圓

材料證明(證明書發行及刻印料共)材料重量一噸ニ付

又ハ一噸未満毎ニ 金 貳 圓

第六條 試験片ノ作製並ニ試験執行等ニ要スル費用ハ總

テ材料検査依頼者ノ負擔トス

(證明書及成績書式略)

#### 東京鋼材製作所の事業開始

本邦に於ける鋼鐵の供

給不足の聲大なるは近來の事なるも東京スプリング製作所の如く其需要する鋼材の性質、寸法等殆んど一定にして數量多きものに至りては其不足を感ずる事尤も早く既に歐洲戰亂發生の際より註文品の不着、延着等多く材料の不便を感ずる事多かりしが昨年下半年期に至りては歐米兩方面よりする輸入殆んど絶望となり漸く製鐵所製品の供給を受けて事業を繼續するの状態にて一般の註文に應ずる事困難なるを以て斷然材料自給の計畫をなし當初は月島日東製鋼株式會社の創立を助成し其製出の鋼塊を一手に引受け東京スプリング製作所に於て新設すべき壓延工場にて造形すべき計畫なりしも普通規模の壓延工場を設備する時は日東製鋼株式會社所産の鋼塊のみを以てしては壓延能力に多大の剩餘を來すべきを以て更に其計畫を新にして現設備となし且つ別に東京鋼材製作所を新設して自ら製鋼することとなし漸く其一部の設備を了して操業を開始するに至れり。

同所の第一期計畫としては十匹鹽基性平爐三基、坩堝爐一基、電氣爐一基中形ロール機二連小形ロール機一連を設備し品質に於ては普通市場向軟鋼を初とし鐵道院、製鐵所等の規格に準據すべき極軟鋼、硬鋼、最硬鋼、發條用鋼、鑛山用鋼、鑄用鋼、工具用鋼、高速度鋼、合金鋼、特殊鋼等寸法、形状に於ては丸、角三分以上六吋迄平鋼巾七吋迄其他五吋迄のアンゲル、ジョイスト、工形鋼及三十封度迄の軌條類にして一ヶ月千八百匹内外の製産をなし得べく既に平爐一基、中小形ロール機各一連の運轉を開始し本年七月を以て第一期計畫全部の完成を見るべく更に本年中に於て第二期計畫として、平爐二基電氣爐一基板及薄板ロール機各一臺コールド、ローリング機、コールド、ドロインク機各一連を設備して五尺×十尺迄の鋼板、薄板、磨シヤフト、鋼紐等の製作をなし更に工作部を増設して現今スプリング製作所の製品以外時計、著音機用の發條其他工具類の製作をも開始すべき計畫なり。

由來東京鋼材製作所の創設せられたる當初の目的は東京スプリング製作所使用の材料供給にあるを以て主として硬鋼の製造に従事し硬鋼のみを以てして其生産額全部の需用ある場合には普通軟鋼類の製作は方めて之れを避くべき方針を以て經營すべく高速度鋼其他の高級鋼より一般工具用硬鋼に至る所謂ハガネの製作を主としたる英國シエツフィールド市に於ける各製鋼所と同様の製品を出すべき抱負を以て計營の方針とせらるよし之れ鋼材製作所が近時簇出せる各製鋼所の計畫に異なる點にして世人に最も難しとする硬鋼及磨鋼棒及磨鋼組等の特殊製品を出し以て同業相競ふ弊を避けんとす。

### ●本邦各製鐵所の擴張と新設計畫一覽表

第一 鐵鑛を原料とする製鐵所

製鐵所名	所在地	大正三年		大正四年		大正五年		備考
		銑鐵	鋼鐵	銑鐵	鋼鐵	銑鐵	鋼鐵	
八幡製鐵所	筑前八幡	—	三三〇、九八	—	二六〇、〇〇〇	—	三三〇、〇〇〇	大正五年より十年迄に年々五萬匹宛増加する豫定 大正六年後半期には銑鐵十二萬匹鋼鐵八萬匹 十二匹一基六匹高爐一基を備ふ 十五匹一基 七十五匹高爐一基五十匹高爐一基増加
釜石田中製鐵所	陸中釜石	四一、六〇一	一四〇、〇四	四八、三〇〇	一六三、八	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
仙人山製鐵所	同 岩崎	二六、五七	—	二八、四九	—	三〇、〇〇〇	—	
栗木製鐵所	同 江刺	一、四八	—	二、一八	—	二、〇〇〇	—	
輪西製鐵所	北海道室蘭	二五、〇六三	—	未詳	—	二七、〇〇〇	—	

此の後尤も困難なる硬鋼及特殊鋼を選びて製作に従事すべきを以て其設備に於ても多大の用意を以て普通私設製鋼所の範を脱し未だ製鋼を開始せざるに先て既に分析室の建築を終り化學、電氣分析の設備を整へて原料其他の選擇に便し研究室用としてユニバーサル、テストインク、マシン、プリンル硬度計、電氣爐、寫眞器付顯微鏡。其他最新の各種試驗機。及試驗材料工作工場を備へ各専門技術者をして専ら製品の試驗製造方法改善其他鋼の製造、應用、加工法、性質等に關する一切の研究をなさしめ何れかの點に於て新發見又新發明をなすべき期待を以て努力し居れり而して製鋼部に於ては現時使用の材料の缺乏に備へんが爲め各種の新材料を以てシーメンス爐に應用の實地試験に着手し既に成算を得たるを以て本邦産にして併も從來利用の途なかりし砂鐵の利用其他に付きては近く其成績を發表するを得べく以て漸次缺乏を告げんとする屑鐵の代用品を發見することを得べきか。

而して本年中に工事に着手すべき電氣製鋼爐に付ては未だ研究中にして何れの式を採用すべきや疑問に屬するが故に之れを詳説すること能はざれどもシーメンス爐の利用と相俟ちて本邦に於ける電氣製鋼上に一新起元を畫する事を得べく高速度鋼、工具鋼及各種特殊鋼の如きは向後同所の特色として天下に誇るに足るべきもの出し得べきを信じ居れり若し夫れ其製品の種類の多様な併も未だ何れに於ても指を染めざる磨鋼棒磨鋼紐の製作に至りては同所が確信を以て江湖に問はんとする所なりと云ふ。